



## 認定書

国住指第 3712 号  
平成 23 年 2 月 2 日

J F E 建材株式会社  
代表取締役社長 大出 直文 様

国土交通大臣 大島 章宏



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：各 1 時間）の規定に適合するものであることを認める。

### 記

1. 認定番号  
FP060FL-0101
2. 認定をした構造方法等の名称  
普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ・単純支持及び連続支持）
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別添)

1. 構造名

普通コンクリート・デッキプレート造床 (合成スラブ・単純支持及び連続支持)

2. 寸法及び形状等

(寸法単位: mm)

| 項目   | 申請構造                                    |
|------|---|
| 床厚   | 80 以上                                   |
| 支持間隔 | 3000 以下 (積載荷重 3500 N/m <sup>2</sup> 以下) |
| 支持   | 単純支持、連続支持                               |

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位: mm)

| 項目       | 申請構造   |
|----------|--|
| ①デッキプレート | <ul style="list-style-type: none"><li>・規格 JIS G 3352 (デッキプレート)</li><li>・厚さ 1.0、1.2、1.6</li><li>・山高さ 50<sub>±1.5</sub></li><li>・働き幅 300<sub>-2+8</sub>、600<sub>-2+8</sub></li><li>・形状寸法 別添-5 参照</li><li>・種類 (1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする<ul style="list-style-type: none"><li>(1) SDP1T</li><li>(2) SDP1TG</li><li>(3) SDP2</li><li>(4) SDP2G</li><li>(5) SDP3</li></ul></li></ul> |
| ②コンクリート  | <ul style="list-style-type: none"><li>・種類 普通コンクリート</li><li>・呼び強度 18～36N/mm<sup>2</sup></li><li>・厚さ デッキプレート山上から 80 以上</li></ul>   |

(別添-1)

## 2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

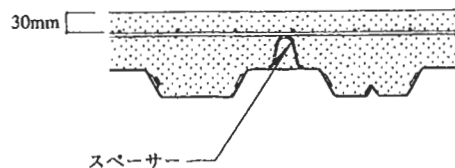
| 項 目          | 申 請 構 造   |
|--------------|---|
| ①ひび割れ拡大防止用鉄筋 | <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 溶接金網</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS G 3551</li> <li>・種 類 (イ)～(ニ)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> <li>(イ) WFP</li> <li>(ロ) WFC</li> <li>(ハ) WFR</li> <li>(ニ) WFI</li> </ul> </li> <li>・線 径 6 以上</li> <li>・間 隔 150 以下×150 以下</li> <li>・かぶり厚さ 床上面から 30 以上</li> </ul> <p>(2) 鉄筋(異形鉄筋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS G 3112 又は JIS G 3117</li> <li>・断面寸法 D10 以上</li> <li>・間 隔 200 以下×200 以下</li> <li>・かぶり厚さ 床上面から 30 以上</li> </ul> |
| ②スペーサー       | <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 鉄線</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・線 径 規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径以上</li> <li>・間 隔 1000 以下</li> </ul> <p>(2) セメントブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寸 法 規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上</li> <li>・間 隔 1000 以下</li> </ul>  |

(寸法単位：mm)

| 項 目             | 申 請 構 造  |
|-----------------|--|
| ③はりとはりとの床版の接合方法 | (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする<br>(1) 打込みびょう（合成スラブ用デッキプレートと鋼構造建築物の梁材とを接合するものとして、国土交通大臣の指定建築材料認定を受けたもの）<br>・寸 法 $\phi 4.5$<br>・間 隔 300 以下（デッキ溝と直交方向の場合、平行方向は 600 以下）<br>(2) 焼抜き栓溶接<br>・直 径 18 以上<br>・間 隔 300 以下（デッキ溝と直交方向の場合、平行方向は 600 以下）<br>(3) 頭付きスタッド<br>・規 格 JIS B 1198<br>・寸 法 $\phi 13$ 以上 $\times$ $l 80$ 以上<br>・間 隔 300 以下（デッキ溝と直交方向の場合、平行方向は 600 以下） |
| ④デッキプレートの接合方法   | (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする<br>(1) なし<br>(2) あり<br>(頭付きスタッドを用いる場合)<br>1)、2)のうち、いずれか一仕様とする<br>1) アークスポット溶接<br>2) すみ肉溶接  |

#### 4) ひび割れ拡大防止筋の設置

溶接金網はスラブ上面より 30mm のかぶり厚さを確保して、梁上を含め床全面に敷き並べる。スペーサーは 1.0m 以下のピッチで用いる。異形鉄筋を用いる場合は D10 以上をタテ、ヨコ間隔 200mm 以下で、スラブ上面より 30mm のかぶり厚を確保して、梁上を含め床全面に敷き並べる。配筋の詳細は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）による。



#### 5) コンクリート打設

溶接金網または異形鉄筋が移動しないように注意しながら、コンクリートを不陸なく打ち込む。コンクリートの施工については「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて行う。

#### 6) 仕上げ

原則としてコンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

#### 7) 養生

コンクリート打込み後の養生は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて行うが、初期には湿潤養生を行い、十分な養生期間をとるよう留意する。

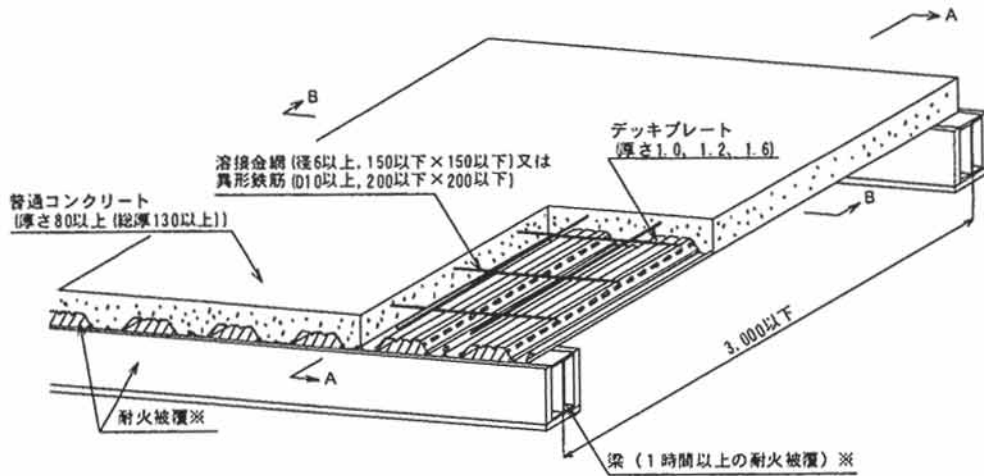
#### 8) 梁の耐火被覆

梁に所定の耐火性能を要求される場合は、それらに応じて適切な耐火被覆を施す。

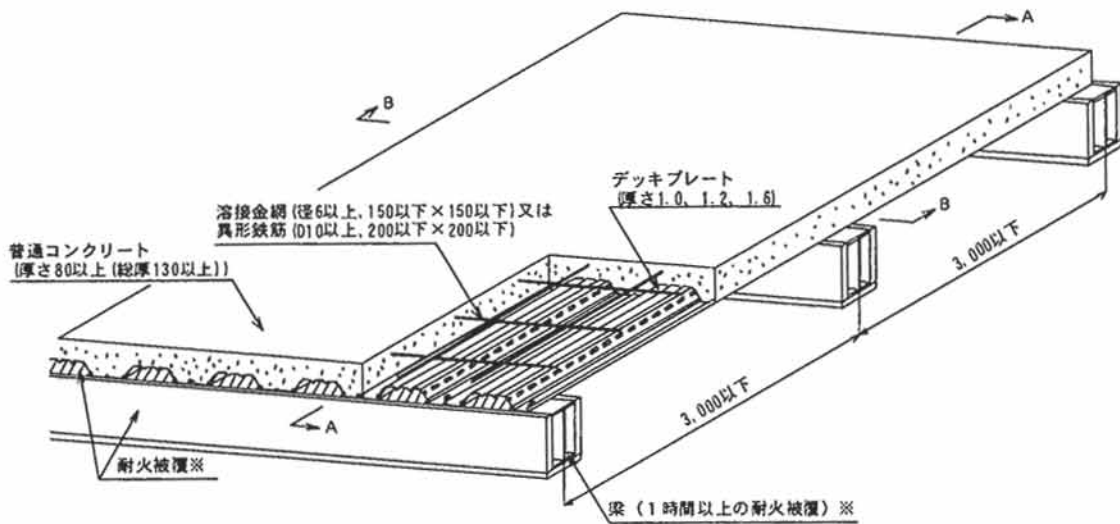
#### 4. 構造説明図

[透視図]

(寸法単位：mm)



単純支持の場合



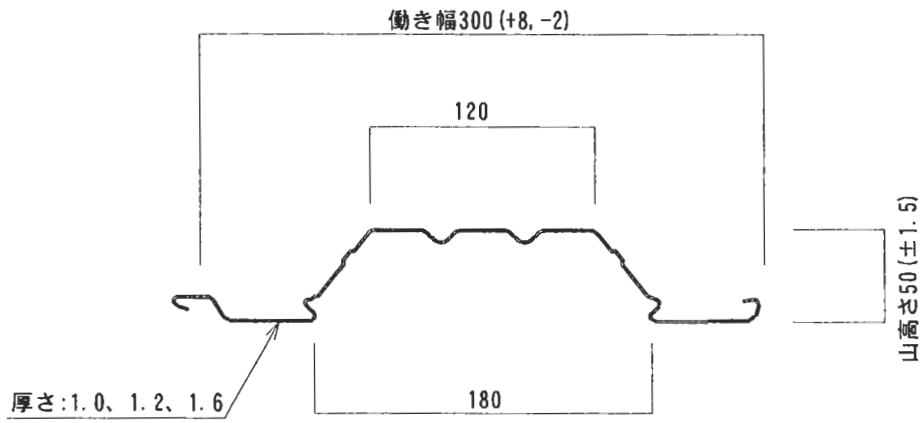
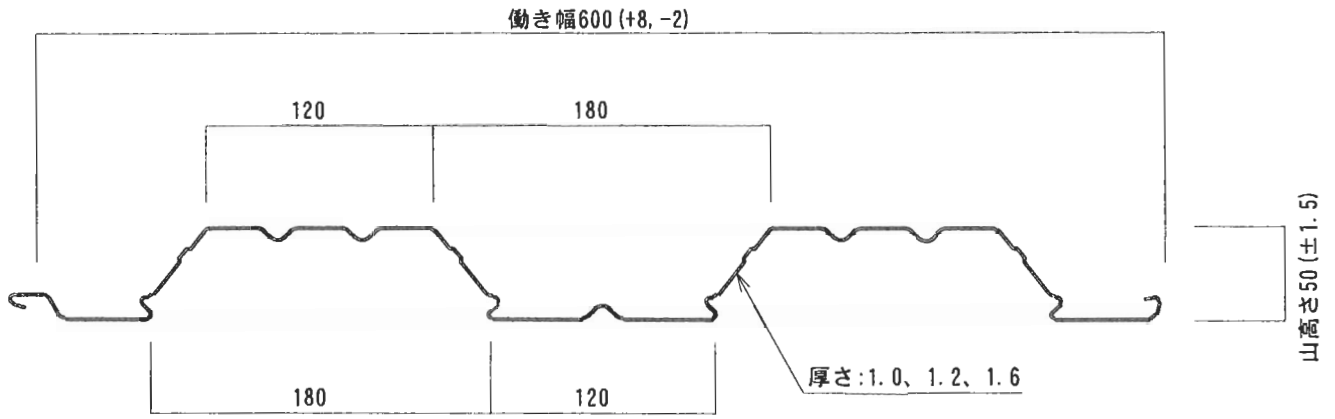
連続支持の場合

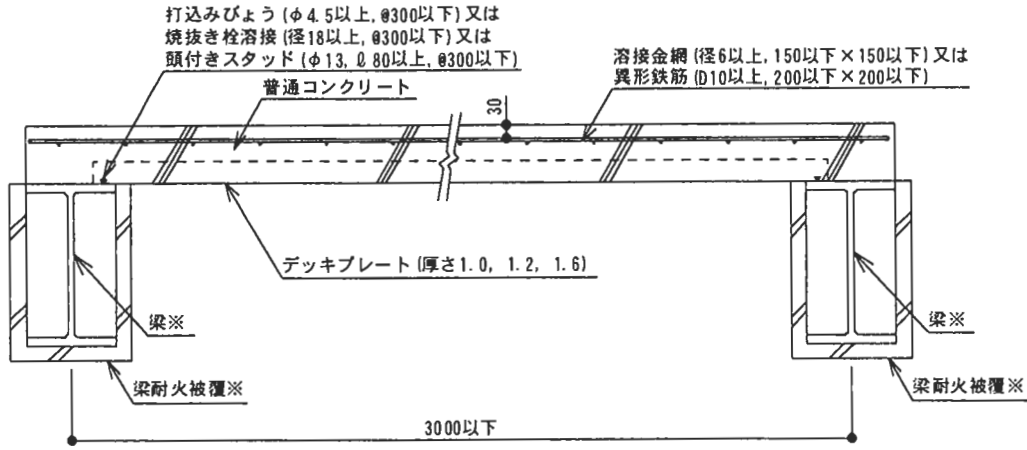
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※：本評価内容に含まない

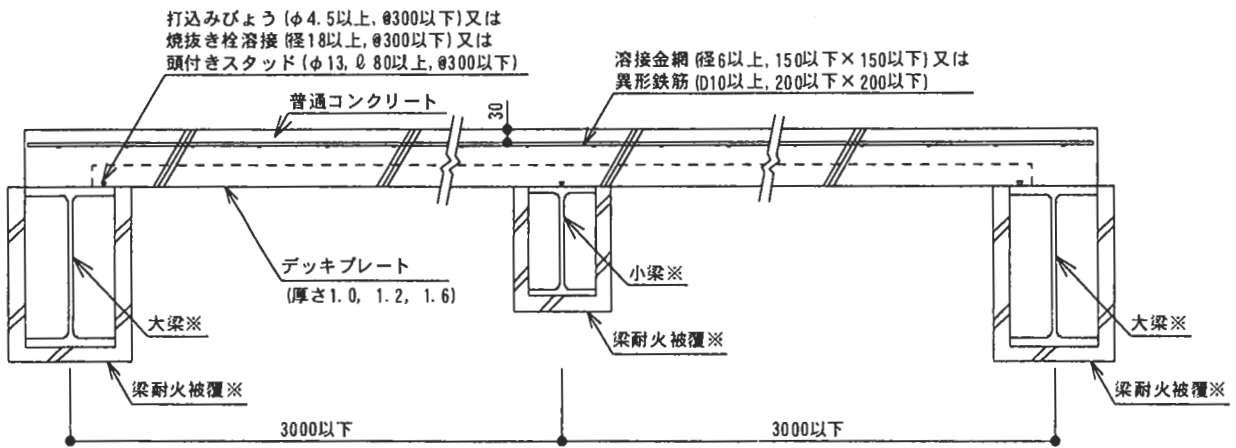
(寸法単位：mm)

[デッキプレートの形状・寸法]



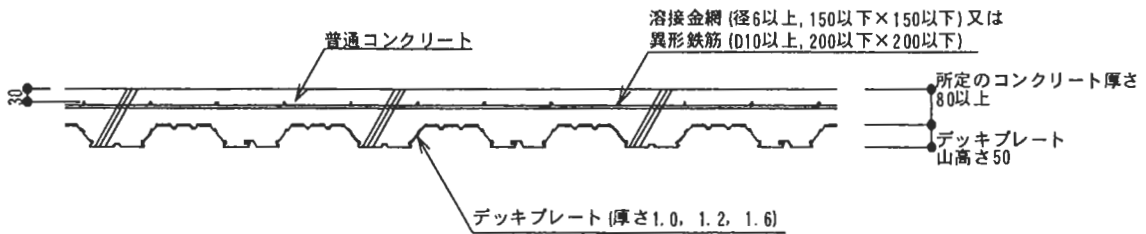


単純支持の場合



連続支持の場合

A-A 断面図



B-B 断面図

注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

※: 本評価内容に含まない



## 5. 施工方法等

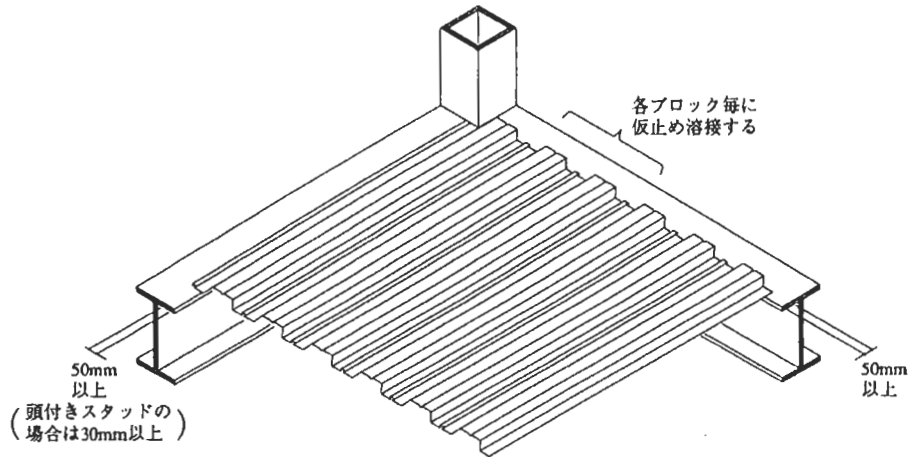
### <施工図>

#### 4. 構造説明図と同じ

### <施工手順>

#### 1) デッキプレートの敷込み

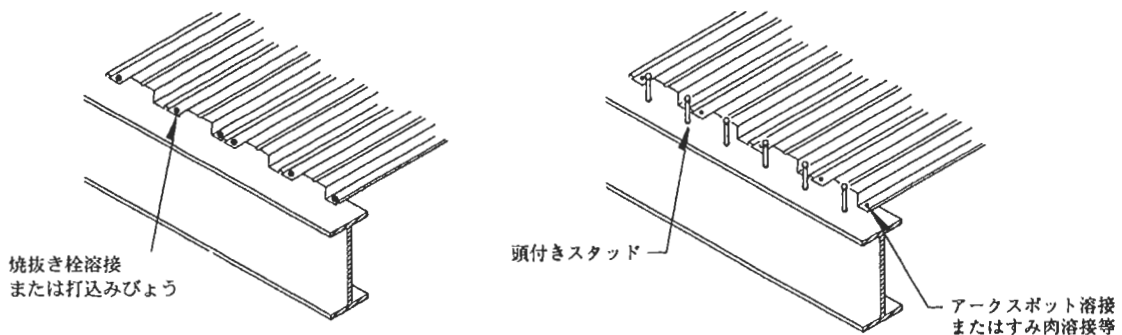
鉄骨梁の場合、支持梁の墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数間隔（5～10枚）毎に仮止め溶接する。



#### 2) 合成スラブと梁との接合

合成スラブと鉄骨梁とは、焼抜き栓溶接、打込みびょうまたは頭付きスタッドで結合する。

デッキプレートと鉄骨梁とは焼抜き栓溶接、打込みびょうで接合するか、または頭付きスタッドを用いる場合は頭付きスタッドの施工前に、すみ肉溶接、アークスポット溶接等で結合する。但し梁のスカラップ近辺には、打込みびょうは打設しないこと。



注) 頭付きスタッドを使用する場合は、焼抜き栓溶接は不要です。

#### 3) デッキプレート相互の接合

デッキプレート相互の接合は、嵌合・溶接・ビス等により構造上・耐火上有効に行う。